

西田友和

月に語る

自分では光り輝けないくせに
夜空で一番明るく見える
いつも同じ顔を向けているのに
毎夜表情を変える
見えない力で僕を引っ張っては
いろんな影響を与えているらしい
けど
僕にはよくわからない
ときには美しく
ときには物寂しげな
君には僕がどう映っているのだろう
少し距離を置いた方が
よく見えることもある
ここにいとふと
間違った道を進んでいるんじゃないかと
不安に駆られるときがあるんだ
そんなとき
僕は君のことを考える
君が傍にいてくれる限り
僕は孤独じゃない
夜がどんなに深くとも
新たな明日が来ることを信じられるから
僕は歩み続ける
惑いながらも手探りで
この暗闇の中を